

群馬県高崎市文化財調査報告書第109集

高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財 発掘調査報告

1990. 3

高崎市教育委員会

例 言

1. 本報告書は、平成1年度に国庫補助金を受けて実施したもので、市内各地における開発行為に係る試掘調査および発掘調査の成果の報告である。
2. 本書に収録した試掘調査等は、高崎市宅地開発指導要綱によって開発申請がなされた開発物件に係る事前調査である。また、高崎市農業委員会に提出される農地転用等の現状変更の届に係る埋蔵文化財扱いに係る事前調査、また文化財保護法において指導した個人開発に係る調査結果を含んでいる。
3. 開発行為から埋蔵文化財を保護するために下記のような指導段階を設定している。
 - 第1段階——周知の遺跡地での開発行為、文化財保護法第57条2の1項の届提出、事前調査協議、埋蔵文化財発掘調査実施の指導。
 - 第2段階——周知の遺跡地に近接、隣接する土地で、同様遺跡の広がりや推定できる土地、試掘調査実施の協力を求める遺跡の確認をする。遺跡が存在する場合は発見届及び57条2の1項の届出を求め発掘調査等の保護方法を協議する。
 - 第3段階——旧市街地等で埋蔵文化財包蔵状況の不明な地域は工事着手時における試掘、立会調査の協力を求める。遺跡発見ある場合は、発見届および57条2の1項の届出を求め発掘調査等の保護方法を協議する。
4. 調査体制
試掘確認調査は高崎市教育委員会職員がこれに当たり、遺跡の発掘調査については教育委員会職員を担当者として派遣し、高崎市遺跡調査会がこれにあたった。
5. その他
調査に係る書類、遺物は高崎市教育委員会に保管している。

目 次

I 平成1年度における開発の状況	1	○高崎市遺跡調査会組織
II 調査の概要	3	○会 長（教育長）
1. 柴崎村間遺跡	3	○副会長（管理部長）
2. 中尾村前遺跡	5	○理 事（都市計画部長、建設部長、 商工部長、管理部長次長、 文化振興課長）
3. 日高中堀添遺跡	7	○監 査（市監査委員会事務局次長、 教委庶務課長）
4. 下小島町頭遺跡	9	○事務局長（文化財保護係長、 書記：文化財担当職員、 会計：文化財担当職員）
5. 八幡中原遺跡	10	
6. 中石原紀載もれ1号古墳	11	
7. 長野氏累代の墓	13	
8. その他の小規模調査	14	

I 平成1年度における開発の傾向と埋蔵文化財調査の概要

本年度における開発申請の傾向と、それに係る発掘調査結果の概略を以下のように示す。まず開発地の申請状況は例年のように市郊外と旧市街地再開発の両事業に集約できる。市街地は8～10階という高層共同住宅建築である。郊外の開発は、区画整理終了地における共同住宅の建築が極めて多い。会社組織と個人投資の二種に大別できよう。個人開発の指導は特にむづかしい問題を持っている。また、幹線道路脇の店舗の建築も多い。一般店舗とガソリンスタンドである。ガソリンスタンドは貯蔵タンク建設工事があって7～8mの深さに掘り下げるので重分に注意して指導せねばならない。一方、貸店舗の建築は通常1～2mの深さ上と、平屋造の建物为主流である。周知の遺跡地以外では試掘調査を実施して遺跡ある場合は遺跡を破壊しない工法を採らせ、その上で地主及び借主両者から再開発時点の調査の急務を提出させている。

上調の様に調査を実施した結果は大体次のようである。

1. 上中層地区における縄文後期土器分布地の存在が確認できたこと。従来、平地部における縄文時代遺跡の実態は不明である点を考えると貴重な資料と言える。（写真11）
2. 指定史跡三島塚古墳（市）の北側に6世紀前半代の方形古墳（通称坊主山古墳）が発見されたこと。三島塚古墳は明治時代に発掘されてしまった大型円墳であり5世紀中～後葉と考えられる。従って、三島塚古墳一坊主山（一）一石原稲荷山古墳（一）と続くことが明らかとなったことは、律令制片岡部のうち烏川右岸の地の歴史の推移を知る重要な資料である。
3. 八幡中原遺跡と上佐野舟橋遺跡は周知の遺跡地であり集落址と古墳等が発見できることは自明のことであった。調査成果もその予想に見合うものがあり各々貴重な追加資料を得ることができた。また、橋貫町における試掘では現在の集落下に古代集落が重なっていることが確認でき、この周辺の開発の指導の手掛りとなった。
4. 条里制水田に係る資料の増加は増加し続けている。島野町大岩における条里水田は、西島地区条里水田と元島名地区を結ぶものであって、貴重。また下堂岡町の段丘下水田地域（現在は工業団地に変化してしまっ）も条里制度水田が存在していることを立証したもので重要である。今後の開発指導の資料となる。
5. 新しい遺跡の発見も何ヶ所あった。石原町小坂山南面（県道改築用の土地周辺）における古墳時代遺物は竊跡の可能性を示していて重要であった。
6. 日高遺跡周辺の開発は2件であった。隣接した日高町中瀬道ではC軽石の堆積した旧水路を、近接した中尾村前（3次）では水路等を検出した。いずれも貴重な資料であった。

(表1) 調査地概要

所在地	開発行為	調査内容	発見面積
1 東町172-16	共済金館	本 東町遺跡B 軽石下水田一溝	812 [㎡]
2 下小堀町字妙心339	ガソリンスタンド	試 F A 埋没水路	258
3 島野町字大野986-5他	飯食店	本 島野遺跡群B 軽石下水田	1,367
4 中尾町字清水1408-1	ドライブイン	確 中尾遺跡	358
5 矢中町字前841	病院	確 矢中遺跡群、B 軽石堆積	9,990
6 柴崎町字村間2298	スミングスクール	本 柴崎遺跡群	1,475
7 中尾町字村前888-1	病院	本 中尾遺跡群、水田址	642
8 日高町字中郷6364-1	運送会社	本 B 高遺跡、B 軽石下水田、3 種時代水路	976
9 下之城町字松村477-1	住宅団地	試 ナシ	2,580
10 中尾町358	貸店舗	試 中尾遺跡群、弥生住居、旧河川(保存)	358
11 高岡町字高根235-1	共同住宅	試 包蔵地(古墳時代)	2,245
12 下小島町字町取404-1	スポーツ施設	本 下小島遺跡群、古墳時代大型水路	2,885
13 上居町字森貝戸871-1	貸店舗	試 包蔵地(縄文)、時期不明土壇	2,413
14 小八木町2001-2	共同住宅	試 井野川右岸、不明	724
15 緑町1丁目23-1	共同住宅	試 B 軽石	754
16 八幡町字中原1286-2	貸借住宅	本 古墳時代集落	730
17 倉賀町字下正六657-2	個人住宅	試 万福寺遺跡	200
18 上豊岡町566-1	分譲住宅	試 B 軽石下水田址	1,532
19 上小堀町字五反田22-1	ガソリンスタンド	試 B 軽石下水田址	1,745
20 綿貫町字原前277-1	店舗	本 綿貫遺跡群、古墳時代住居址(保存)	1,756
21 石原町字坂田3199	貸借住宅	本 記載もれ中石原1号古墳址、方墳6'初	1,200
22 日光町9・10・11-1	市営住宅	試 日光町遺跡、奈良・平安時代住居址	2,889
23 貝沢町字柳町1319-1	店舗	試 F A 埋没水路	3,510
24 浜川町字道場981	墓改修	試 長野氏系代墓、市指定	44
25 上堀町字宮町東88-1	鉄塔建築	本 上堀遺跡群、古墳時代土壇、住居址	776
26 上居町字坂地蔵491-1	貸店舗	試 B 軽石下水田、古墳時代包蔵地	1,588
27 柴崎町字熊ノ前	鉄塔立替	本 熊ノ前遺跡、水田址、住居址等	1,353
28 上佐野町字舟橋162-1	分譲住宅	本 舟橋遺跡、古墳址、古墳時代住居址等	
29 石原町小坂山甲3103	包蔵地	一 分布調査	

II 調査の概要

1. 柴崎村間遺跡

(担当: 桜井 衛・宮寺 久)

- (1) 所在地: 高崎市柴崎町字村間2298番地
 (2) 開発内容
 スミングスクール開設
 (3) 経過と成果

① 経過

1988年12月に上記株式会社より上記地帯約

3,000㎡においてスミングスクールの開設

をはかりたいと申請が出された。しかし、該

当地域は、国始元年銘銅鏡を出土した蟹沢古

墳の西方約0.2kmに位置し、柴崎遺跡とし

て認知されている地域である。また矢中条里水間址の北に接する場所であって、古墳時代

から中・近世に至る遺跡地が推定される。

事業者とは事前に発掘調査を実施することで協議ができたので、桜井、宮寺が高崎市道

跡調査会に派遣され調査会調査員星野と三名で調査にあたった。1989. 9. 4. 17~5.24

② 成果

遺跡は、以前より建立されていた養鶏舎の基礎で顕しく破壊されていたもので、古墳時

代前期~近世に至る遺構と遺物が検出されている。

古墳時代前期では、土坑3基(井戸状土坑2基+バレルスタイル甕片を出土した土坑1基)

を検出した。また住居址跡の落こみを検出しているのが不明確である。

古墳時代中期では、土坑1基を検出しているが近世の土坑と重複しており残存状況が悪い。

世では、溝状遺構・井戸址・ピットを検出している。これらのうち2・3号溝は規模

も大きく、また4・5号溝もこれに有機的関連をもつものと考えられる。また、3号溝か

らは、南蛮燭台と思われる燭台が出土しており、一連の遺構の性格を検討する上で重要で

ある。

近世では、土坑・溝・ピットを確認している。溝はT字状に交差するものやL字状に屈

曲するものもあり、その性格の一端を窺い知ることが出来る。遺物は、陶磁器とともにホ

ウロウが多数出土している。その他に時期不明な土坑・溝等の遺構を検出している。



位置図 1. 当遺跡 2. 蟹沢古墳址
 3. 浅間山古墳 4. 矢中条里
 5. 柴崎条里 6. 南大類遺跡



写真1 遺跡全景

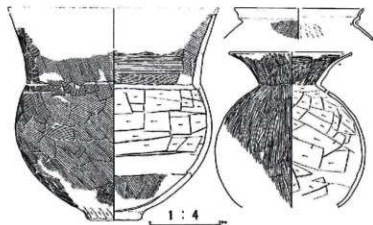


図1 8号土坑出土土器実測図

2. 中尾村前遺跡

(担当: 中村 茂・関口 修)

- (1) 所在地: 高崎市 中尾町886番地
平成元年 6月5日~21日
調査面積 延680㎡
- (2) 開発内容: 日高病院増設に伴う緊急発掘調査
- (3) 経過と成果

① 経過

昭和59年、病院新設による第1次調査。昭和63年、病棟増設による第2次調査実施。古墳時代・平安時代の水田址を検出。今回も水田址の存在が確実であるので調査を実施した。

② 成果

C軽石下水田址

4世期中葉、浅間C軽石に埋没した水田址である。C軽石は上層からの擾乱を受けて純層ではないが、C軽石に直接埋没した水田址と考えて差支えない。

遺構としては北東から南西へ延びる溝と土庇を検出したのみである。溝は両側が畦畔のように盛り上がっていて、部分的に張り出しが見られるのは畦畔の底跡と思われる。水田面は擾乱されていて畦畔を確認できなかった。土庇は風倒木痕と思われた。

古墳時代畠跡

C軽石層とB軽石層の中間で確認された畠跡である。畠間には黄色い榛名F A火山灰(6世紀初頭降下)がブロック状に混入していた。畠間は北西から南東方向にかけて、平行に筋をなして検出された。畠間の間隔は25~30cmである。F Aの状況からみると、降下後あまり時間経過のない時期に畠として再開されたと思われる。

B軽石下水田址

浅間B軽石(1108年降下)に埋没した水田址である。B軽石の遺存は良好で6~10cmの厚さで堆積していた。畦畔は南北方向2本、東西方向2本が検出され、3ヶ所の畦畔交点に区切られた水田6面を検出した。畦畔の走行は東西南北にほぼ等しい。地形が南および西が低くなっている畦畔も段差型である。狭い調査区のため水田の面積は不明である。水口などの施設も検出されなかった。足跡と思われる凹みを検出したが歩行状況をたどるものはなかった。周辺では広範囲にわたって条里水田址が確認されているので、本水田址もその一部をなすと思われる。



位置図 1. 2. 3 調査区 4. 日高遺跡
5. 日高中堀添遺跡



写真2 C軽石下水田址 (左が北)



写真3 古墳時代畠跡 (左が北)

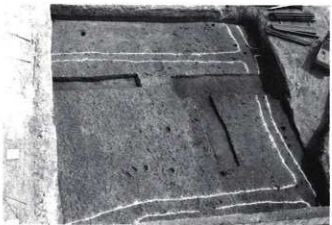


写真4 B軽石下水田址 (左が北)

3. 日高中掘遺跡

- (1) 所在地：高崎市日高町字中掘364-1
調査期間：平成元年6月9日～7月12日
(2) 調査内容：運輸会社配送センター建設
(3) 経過と成果

① 経過

国指定日高遺跡の南隣接地である当該地は、周辺においても日高地区土地改良事業に伴う発掘調査等に遺跡が確認されていて該当地に遺跡があることは明らかであった。このため、遺跡の確度が予測できる建物建設予定地の発掘調査を実施することとなった。

② 成果

今回の調査においてB軽石下水田址及び水路、C軽石下水田址に関連すると推定できる谷地の落ち込みを検出することができた。また時代的には上記二者の中間に位置する溝状遺構を一部確認した。他の遺跡に比べて非常に固くしまっていたB軽石下から検出した水路は上幅が約1～1.3m、深さ約5～6cmと浅いもので、両脇に畦を持つタイプである。水路は、南北走行で調査区を縦断するものとみられるが、調査区の北と中程は水田面が窪んでいてその部分では不明瞭になっている。一方、水田の畦は水路と同様に低平であって確認が困難であった。

本遺跡と本遺跡の周囲が実施された土地改良に伴う発掘調査との関連をみると、本遺跡の北側で検出された坪境畦畔が南へ続くと本遺跡の水路及びこれに平行する畦畔の位置になる。また、この坪境水路及び畦畔は、日高遺跡で検出された坪境水路及び畦畔の一部ということになる。日高遺跡の平安時代水田址は、奈良時代に施行されたという条里制に基づく地割にのっていることが明らかにされてきているが、本遺跡で検出された水田址もその一部に組み込まれていることが明らかになった。C軽石下より検出した谷地の落ち込みは、本遺跡の位置するところが日高遺跡の範囲確認調査で弥生時代水田址が形成されていた谷地の中に含まれていることや、土壌的にみても、日高遺跡で検出された弥生時代水田址関連の遺構であると考えられる。またC軽石層に埋没した谷地状斜面から下半分がめり込むような状況で自然水が斜面に平行して6本検出された。日高遺跡の弥生時代水田址でも畦や水口の部分から木が検出されており、類似したものと考えられる。なおB軽石下面で調査区地西端から南東方向へ続く凹みは、C軽石によって埋没した下層の谷地状遺構による影響と考えられる。

(担当：田村 孝・志田 登)

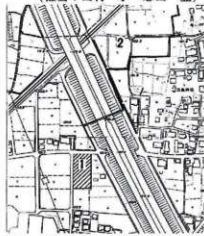


図4 位置図 1.本遺跡 2.日高遺跡

写真5 日高中堀添遺跡

- a. 全 景
b. B軽石下水田址
c. B軽石下水田址
d. e. B軽石下凹地
f. C軽石下谷地
g. 木材出土状況



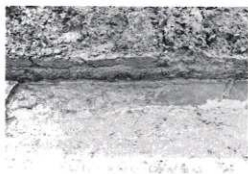
a



b



d



f



c



e



g

4. 下小島町頭遺跡

- (1) 所在地：高崎市下小島町字町頭
404-1・407-1
(2) 開発内容：スポーツレジャー施設の建設
(3) 経過と成果

① 経 過

この開発地は、大八木水田遺跡（地図A）の北西隣接地に位置する。平安時代水田址を広範囲に調査し条里地割の状況が初めて明らかにされた遺跡である。従って当該開発地においても平安時代水田址が見られる可能性が高いため工事着手前に試掘を実施したところB軽石が残存状況が悪い存在するために本調査に入った。

② 成 果

平安時代水田址の検出はなかったが、下層からF A再堆積層に被覆された巾1.5m、深さ0.6m、検出全長30mの東西走向の溝、平行するC軽石が横断する巾1m、深さ30m、検出全長15mの溝も検出された。



a



b



c



d

写真6 a：F A再堆積層に埋没した溝
c：F A再堆積層埋没の溝全景

b：2トレンチ検出のF A再堆積層埋没溝近景
d：C軽石埋没の溝全景（手前の溝）

（担当：田村 孝・志田 登）



図5 位置図1.当遺跡 2.下小島遺跡（集落）3.大八木条里 4.大八木遺跡（集落）

5. 八幡中原遺跡

(担当: 神戸時路・福田敬一)

- 所在地: 高崎市八幡中原1286-2
- 開発内容: 賃貸借アパート2棟
- 経過と成果

① 経過

該地は高崎市立八幡中学校校庭の東南に接した場所であり、中学校建築工事に伴う事前調査で明らかとなった八幡中原遺跡に含まれる。従ってアパート建設予定地においても住居址の存在が予想された。そのため開発行為着手前に発掘調査を実施し記録保存を計ることとなった。

② 成果

調査の結果、本遺跡内において11軒の竪穴住居址の存在が明らかとなり、遺跡の広がりはさらに東方面にのびていることが予想された。なお発掘調査南部のアパート建築場所を中心として実施したため、北部の畑のまま残される場所を確認された3軒については再び掘め直し保存することとした。この結果、8軒の住居址を調査した訳であるが、6・8号住居址については西側が道路であり調査対象外であるため一部を確認したにすぎない。調査により検出した各住居の規模、形状、出土品等は次表のとおりである。



図6 位置図 1.当遺跡 2.八幡中学校内
八幡中原遺跡 3.七五三引遺跡
4.鎌倉塚古墳 5.剣崎遺跡
6.若田遺跡

住居番号	平面形状	主軸方位	規模 (長×幅)	柱穴数と柱 穴間隔	おぼろげな おぼろげな	他住居との 切り合い関係	出土品の種類	備考	
1	隅丸方形	N-23°-E	356 348		北東	○	無し	○ ○ ○	田舎跡を含む
2	隅丸方形	N-2°-W	394 392	4 (348, 388, 348, 342)	北	○	無し	○ ○ ○	
3	隅丸方形	N-109°-E	316 288	無し	東	○	4号住居を切る	○ ○ ○ ○	田舎跡を含む
4	隅丸方形	N-111°-E	466 432	4 (364, 388, 336, 372)	東	○	3号住居に切られる	○ ○ ○ ○ ○	
5	隅丸方形	N-109°-E	380 331	1	東	○	無し	○ ○ ○	
6	隅丸方形	N-17°-E	440	2本の木柱	北	○	無し	○ ○	西側へ拡張
7	隅丸方形	N-1°-E	448 442	4 (364, 388, 348, 384)	北	○	8号住居に切られる	○ ○ ○	北側へ拡張
8	?	?	?		東	○	7号住居を切る	○ ○ ○	東側へ拡張

表2 八幡中原II遺跡と住居址状況一覧表

本遺跡は地形および遺物の散布状況よりみると、八幡中原遺跡の一部と考えられ更に東方へのびていて七五三引遺跡(同時期集落址)を含む大集落を形成しているものと思われる。また本遺跡の北側と南側の台地では本遺跡内より検出されている住居址と時期を同じくする古墳が多数存在しており、それ等との関連性も考えられる。

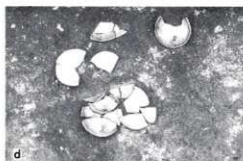


写真7 a. 1号住居址 b. 3号住居址 c. 2号住居址 d. 5号住居址

6. 中石原記載もれ1号古墳(坊主山古墳) (担当: 横倉典一・調査員星野守弘)

- 所在地: 高崎市石原町字段田3199番地
- 開発内容: 賃貸借アパート、木造平屋5軒
- 経過と成果

① 経過

該地は昭和初期に古墳を取り壊し田につくりかえた。出土品等の状況は全く不明。土地所有者はこの土地の有効利用するために1m近く盛り土をして平屋または2階建ての賃貸借のアパートを建築する計画である。遺跡に直接的被害はないと思われたが従前の遺跡の状況が不明であること、市指定の三島塚古墳に接している点を考え何らかの調査をすることが必要であろうと判断し事業主に協力を求めた。

② 成果

調査した結果残存長26m方形の古墳であることが判明。基壇部葬石の中、下半部が残っていた。葬石上には基壇端部から埴輪が多量に崩れ落ちていた。埴輪は西溝側においては、馬、円筒型埴輪、南溝側では馬、人物、家財、円筒型埴輪が検出されている。一方北溝は極めて少なく円筒型埴輪が少量発見されたに停まる。馬型埴輪は和歌山県井辺八幡山古墳の例に類似する。また高さ3cm程の女子埴輪頭部は類例極めて少なく貴重である。

諸般の事情より判断すれば、当古墳は6世紀前半代で横穴式石室を有する古墳と推定している。三島塚古墳との関連上今後検討を要する。



図7 位置図 1.当遺跡 2.三島塚古墳
3.石原稲荷山古墳 4.小祝神社



写真8

- a. 埴輪・馬
b. 西南すみより南葬石
c. 南葬石



7. 長野氏累代の墓

- (1) 所在地：高崎市浜川町大字道場
- (2) 開発内容：墓周囲の堀の改修
- (3) 経過と成果

① 経過

長野氏累代の墓は市指定史跡として保存されてきたが、平成元年12月より浜川住宅団地の道水路工事が行なわれることとなり、これに先行して墓周囲の堀が改修（石積み）されることとなった。そこで工事着手前に調査を実施し記録保存されることとなった。

② 成果

現況では墓の東・西・北の三方に空堀があるが、これに断割トレンチを入れ旧堀の形態をとらえることとした。現況の上端巾は東と西の堀が約2.5m、北の堀が約2.5mであり、深さは平均で50～70cmであった。調査の結果、墓所の北及び西に大型の堀が存在するが、東側には無く、ある時期に付たしに掘られたものと考えられる。北と西に存在する旧堀は同一のものであり規模が大きく現在累代の墓として宝篋印塔等が設置される部分より内側に上端がある為、墓所の内側は完掘できなかった。旧堀の規模は西で巾約3.5m、北が4m、調査できなかった内側への広がりを含めると上端巾は4.5～5mにも達する。深さは現地地表下、約1.7mであった。西及び北の堀は連続したものであり、来迎寺基地の敷地(東)から累代の墓の北に沿い、南へ直角に曲



写真9 北溝調査状況

(担当：高橋 淳・山田仁史)



図8 位置図 1.当遺跡 2.浜川遺跡群
3.来迎寺 4.浜川窖 5.工業館
6.道場遺跡群

がる。そして現存の墓所の西辺よりすこし内側に入るような形で南側の田へ抜けている状況である。つまり当地に存在したと考えられる館址の堀堀のコーナー部分を利用してこの墓所は作られ、区画を設ける為に東側に新しい堀をつけたしたと考えられる。

8. その他の小規模調査

前述した遺跡以外の小規模の調査のうちで特筆できる部分において概略を説明する。

(1) 縄文時代

上中居町森見戸(13)において縄文土器包含層を確認した。平地における後晩期集落は重視したい遺跡である。

(2) 弥生時代

中尾町清水(4)において樽式土器の住居址を検出、日高遺跡より約5kmの位置にあり日高遺跡を取り巻く同時代の村落観の推定に一段かうことが期待できる。土盛りをして排水槽等には遺跡の無い東へ移し建設してもらい一応の保護の手はうてた。

(3) 古墳時代

今年度は同時代に係わる調査が多くあった。第1は史跡大鷗巻古墳の西側隔地の試掘(遺構なし)、第2は、高岡町(11)における遺跡の新発見および梅貫町(20)における集落址の確認、日光町(22)の六世紀の埴輪出土、上滝町(25)の古式土師器伴出遺構、上佐野町(28)における7~8世紀代の須恵器の敷布地、県道の付替工事に含まれるので県教育委員会及び高崎土木事務へは連絡済み。第4は、下小島町(12)のF A、F Pに係わる大型水路の発見および貝沢町(22)のF A降下以前の水田址の発見、特に貝沢の場合は近接して貝沢御町遺跡がありその時代に接する部分があり注目したい。

(4) 奈良、平安時代

集落に係わる遺跡では、本調査となった上佐野舟橋遺跡(28)が挙げられる。水田址は、いずれもB軽石に被覆されたものであった。但、上豊岡町(18)の発見はこの周辺地の同種遺跡の存在の手掛りとなった。すでに工業団地として開発をされているが今後の指導の資料となるのが貴重な資料である。

(5) その他の時代

浜川町の来迎寺域における発掘において得られた蔵骨容器の資料は15世紀の陶器資料として重要である。市史跡「長野氏家代墓」の環境整備事業である。

この外に掘削時の立会金は極めて多いがここには記さない。



写真10 京目大岩遺跡桑里水田址



写真11 a. 高岡高根遺跡 e. f. 総貫遺跡群
b. c. 上中居森貝戸遺跡
d. 万福寺遺跡群 g. 上小嶋遺跡

h. 中島岡遺跡



a



b



c



d

写真12 a. 東京電力（熊ノ前遺跡） b. 石原小坂山 c. 日光町 d. 貝沢柳町

高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財 発掘調査報告

平成2年3月25日 印刷

平成2年3月31日 発行

編集者 高崎市教育委員会

文化振興課文化財保護係

印刷所 進広堂印刷株式会社

調査遺跡位置図

